

令和4年度経済学部学生チャレンジプロジェクト事業成果報告書

地域と学生をつなぐ場 なえどこ

代表 岡崎 萌生（経済学科 2年生）

（1）目的と概要

本プロジェクトの目的は、学生が活動を通して地域に対する知識や関心を深めることと、またその実現のために学生と地域がつながる場を設けることである。

香川大学は地域に根差した大学であり、地域に関する活動に興味のある学生が多くいる。講義だけでそれらを体験するのではなく、プロジェクト内で主体性を持って取り組むことで新たな学びや自己実現、成長を感じることができる。

今年度は今までの活動内容とは異なり、取材相手に来ていただくのではなく、私たちが現地へ行き、地域の企業に取材をするといったフィールドワークを中心に行い、その他にも大学周辺マップ作りや視察などの活動を行った。

（2）実施期間

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

（3）成果の内容

1) このプロジェクトの具体的な成果

今年度は主に3つの活動を行った。具体的には企業取材、小豆島視察、大学周辺マップ作りである。前期では1つの企業取材と小豆島視察、後期でも1つの企業取材と大学周辺マップ作りを行った。

6月に行った企業取材では香川県高松市で不動産事業を行っている「株式会社グローバルセンター」様に地域密着型企業としての役割や展望などをお聞きした。

地域企業は地域が抱える問題や地域が有している強みをよく理解しているため、地域の事を知る上で企業取材は欠かせない活動である。またプロジェクトとして取材内容を記事にして発信することで、プロジェクト外の方々にも企業の取り組みを知ってもらい、企業に還元することができた。

9月には「小豆島・迷路のまちアートプロジェクト MeiPAM」様のご協力の下、小豆島視察を行った。視察目的としては、先方が作成した「小豆島ローカルトラベルガイド」に関する意見交換と、そこから私たちが後期に作成する大学周辺マップ作りに関するノウハウを学ぶことである。小豆島ローカルトラベルガイドは「持続可能な観光につながる、訪問者と地域コミュニティの橋渡し」をコンセプトとしており、設置すれば即なくなるほどマップ

としては異例の人気ぶりで、無料配布とは思えないほどの情報量を含み、小豆島の活性化に貢献している。今回私たちはマップに記載されているコースの1つを実際に巡り、その内容（各場所までの所要時間やルート）が現実的なものであるかを検証した。また意見交換の際には、手に取ってもらいやすいデザインや内容について教わり、実際に私たちのマップ作りに活かすことができた。

10月からは大学周辺マップ作りに取り組んだ。今回のマップはターゲットを県外出身の新生入生として、慣れない土地での生活を楽しめるような情報を取り入れた。飲食店をメインに自分たちが実際に訪れ、取材した内容や抱いた感想を掲載した。デザインは小豆島で学んだことや、アドバイザー教員の西成先生からのアドバイスの下作成し、今年度内での完成を実現できた。今後は完成したマップの設置や発信について取り組む計画である。

2月には、希少糖に関する事業を行う「株式会社レアスウィート」様に企業取材を行った。今回は1年生も初めて取材に参加し、希少糖発祥の地である香川県の取り組みについて学ぶことができた。希少糖は香川大学・農学部の何森教授の研究から作成することが可能になったとお聞きし、その他にも県の成長戦略として取り上げられているなど香川県では大きな存在であることを学んだ。

その他の活動としては、瀬戸内国際芸術祭の新しい価値を生み出し地域を盛り上げるという点から地域創生活動について学ぶため男木島と女木島への視察や、「TERASU」プロジェクトが開催した屋島山上ちょうちんカフェの視察を行い、その土地ごとの地域資源の活用方法を学んだ。

2) このプロジェクトが大学や地域社会の活性化、事業の振興等に対してもたらした影響あるいは効果

今年度は本プロジェクトが地域と学生をつなぐ場を設けることを目標として活動を行った。香川大学に与える影響としては、なえどこの活動を通して、地域の方々や企業に香川大学には地域活性化に関心のある学生が多いことを知ってもらうことで、産学連携の推進に貢献できたと考える。また地域社会の活性化については、小豆島ローカルトラベルガイドでの意見交換やプロジェクト内で作成したマップによって、地域資源の発信に貢献した。事業の振興に関しては、地域企業への取材を通して、その取り組みを発信した。

プロジェクトメンバーの学生については、地域資源や地域の取り組みを様々な方面から学び、地域貢献への意識を高め、将来の地域の担い手としての意識を高めることができた。

(4) プロジェクトから学んだこと

今年度の活動では、取材や視察、マップ作りなど様々な活動を通して、メンバーの企画力やデザイン力、交渉や発信の方法を身に付けることができた。しかし課題として、プロジェクト外の学生との交流が少なかったことが挙げられる。私たちが経験した貴重な学びや体験を他の学生にも経験してもらうことで、地域と学生をつなぐ場としての役割をより果たすことができると考える。来年度以降はこの点について話し合い、なえどこの活動をより発展させたいと考える。

また活動で関わった様々な企業や組織を通して、香川県にはまだ知られていない魅力がたくさんあることを学んだ。これらをより効果的に発信して、私たちの活動に協力して下さった方々に還元することが私たちの使命であると実感した。今年度学んだことや発見したことを活かして、来年度以降も活動が継続できるよう努力したい。

(5) 実施メンバー

代表 岡崎 萌生 (経済学部 2年)
副代表 井上 優菜 (経済学部 2年)
二川 英実 (経済学部 3年) ※令和4年8月末日まで
末崎 芽生 (経済学部 2年)
松本 奈々 (経済学部 2年)
山本 美優 (経済学部 2年)
和田 千穂 (経済学部 2年)
岡 桃子 (経済学部 1年)
田丸 七海 (経済学部 1年)